

航空支援集団司令官 就任の辞

本日、航空支援集団司令官を拝命し、同職を継承した福江空将である。本職、常に隊務運営のあるべき姿を追求しつつ、この重責を全うするため身命を賭す決意である。

航空支援集団にとって、今年は創設から 25 周年の節目となる年。この間、当集団は国内外において多種多様な任務を遂行してきた。時には尊い犠牲を払いながらも、たゆまぬ努力によって幾多の困難を乗り越え、輝かしい実績を積み上げてきたところである。

航空支援集団は、予断を許さない現下の情勢においてはもとより、将来にわたり保有する各種機能を遺憾なく発揮する揺るぎない態勢を堅持し、国民の期待に確実に応え得る組織であり続けることが肝要である。このため、私は現場進出等を通じ、集団の隷下部隊等を取り巻く環境を速やかに把握するとともに、集団としての隊務運営上の中長期的なビジョンを明示し、それらを具現化していくことを自らに課すこととしたい。

諸官には、付与された任務を組織力の結集により完遂するとともに、所属する隊員個々が、より良き人生を全うせんがため、「任務完遂 事故皆無」をモットーに、明るく、厳しく、そして爽やかな集団の気風を維持しつつ、いとおしむ心を持つ碧き大空の強者（つわもの）であることを望む。

着任に当たり、次なる四半世紀に向けた新たな歩みを着実に進めていく上で、全隷下部隊等に対する統率方針である 3 つの項目を以下に示す。今日ある集団の良き気風と伝統を継承するという観点から、前任の司令官が述べられてきた所信に、本職の新たな方針を加えたものである。

1. 変化への適応
2. 衿持の保持
3. 改善と自律の追求

終わりに、本職、諸官の陣頭に立って任務至上、与えられた職務に全力を傾注する所存であることを告げ、着任の辞とする。

平成 26 年 8 月 5 日

航空支援集団司令官

空将 福江広明